

プラハの春を信じて —五輪の名花 チャスラフスカ—

(株)日本設備工業新聞社
代表取締役社長 高倉克也

プーチン政権によるウクライナ侵攻から2年が経過した。悲惨な戦争で犠牲者が拡大し、いまもなお平和な日々が訪れる気配はない。

超大国ロシアによる軍事介入は旧ソ連の時代から東欧諸国で強行されてきた。民主化を求めて決起した旧チェコスロバキアもブレジネフ政権の率いる5カ国軍によって占領された。だが弾圧に屈せず信念を貫いて抵抗した人々もいる。

東京オリンピック女子体操の金メダリストであるベラ・チャスラフスカ（1942—2016）は民主化運動のシンボルとして熱烈に支持された。重圧に喘ぐ人々と連帯し、不条理な支配からの解放を願っていた。しかし国境を超えて乱入する戦車の轟音と共に彼女の運命も暗転した。強大な権力の監視下に置かれ、選手生命の危機に直面する。

優雅なバレリーナのように

チャスラフスカは第2次世界大戦中、ナチス・ドイツ占領下の旧チェコスロバキアの首都プラハで生まれた。幼い頃から活発で屋根の上をひとり歩くような腕白な子供だった。

ナチス・ドイツの敗退で母国は1948年、社会主義体制に移行する。実際は大ロシア民族主義を呼号する独裁者スターリンの専制国家・旧ソ連の衛星国のひとつと化していた。

ふたりの姉と共にチャスラフスカはバレエを習い、身体能力を磨くことや人前で演技することの楽しさを覚えた。フィギュア・スケートも開始し、

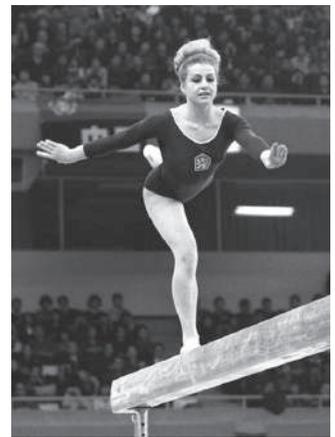
ジュニア選手権で優勝する。カレル大学体育学部進学後、体操選手として頭角をあらわす。

1960年ローマ・オリンピックの代表選手に抜擢され、団体総合で銀メダルを獲得する。その際、世界トップクラスの日本男子選手の妙技に感動

し、彼らに学んで大技を習得していった。のちに東京オリンピック個人総合で優勝する遠藤幸雄選手と特に親交を深めた。彼女は後年「遠藤さんは私の技術的な課題を身振り手振りで教えてくれました。おかげで私は日本の体操の技術を身につけることができたのです」と述懐している。

1964年に開催された東京オリンピックに出場し、若干22歳の彼女は跳馬、平均台、個人総合の3種目で金メダルに輝く。ハイレベルの技術にとどまらずバレリーナのように優雅な演技で観客を魅了し、五輪の名花と讃えられた。団体総合でもチームの牽引力となり、銀メダルへ導いた。

高度経済成長の波に乗った日本で一躍脚光を浴びたチャスラフスカは東京滞在中、ファンから扇子、浴衣、人形などを次々とプレゼントされた。全国から届いた贈り物はトラック1台分に及んだ



ベラ・チャスラフスカ

といわれている。感激した彼女は生涯にわたって思い出の品々を大切に保管し、遠藤選手たちとの交流を通じて母国との架け橋になりたいと願った。帰国後、彼女は国民的英雄として迎えらる。

表彰式で抗議の意志表示

当時、母国は旧ソ連を盟主として結成された東欧諸国の軍事同盟ワルシャワ条約機構の事実上の支配下にあった。圧政に対する批判が高まり、1968年1月に「人間の顔をした社会主義」を掲げて改革派のドブチュクがチェコスロバキア共産党の第一書記に就任する。ドブチュクは言論や表現の自由を認める社会主義をめざそうとした。

4月から高揚した民主化運動はプラハの春と呼ばれ、6月に「労働者、農民、科学者、芸術家、すべての人々のための二千語宣言」が知識人たちによって起草された。チャスラフスカは全面的な支持を表明して二千語宣言に署名する。「スポーツマンは平和を愛している。私は自由が欲しかった」と述べて改革の旗手となった彼女の影響もあり、1週間足らずで3万人以上の市民が署名した。

だが希望の春は短かった。ワルシャワ条約機構軍は8月にプラハへ侵攻し、ドブチュクを解任して全土を制圧する。チャスラフスカも言動の自由を奪われ、目前に迫ったメキシコ・オリンピックへの出場が危ぶまれた。

歴史的な民主化運動の圧殺に対する国際世論の非難は急激に高まり、ついにチャスラフスカはメキシコ・オリンピック開催直前に出国を許可された。このとき彼女は母国の屈辱を晴らすために最高の演技を誓って競技に臨んだという。

トレーニングも不十分な中、彼女はみずからの決意を証明するように圧倒的な強さを見せつける。跳馬、床競技、段違い平行棒、個人総合で4つの金メダル、平均台と団体総合で2つの銀メダルと女子体操6種目すべてのメダルを獲得した。

床競技では旧ソ連の選手と同点優勝になった。表彰式で旧ソ連の国歌が流れるあいだ彼女は顔を背け、母国への軍事侵攻に対する抗議の意志を示す。のちに彼女は「オリンピックで政治的な行為は慎まなければなりません。私はぎりぎりの線を考えて顔を背けました」と語っている。

母国へ凱旋してまもなく東京オリンピックの男子陸上1500mの銀メダリストであるヨゼフ・オドロジル陸軍中尉と結婚した。だが二千語宣言への署名撤回はあくまでも拒否し、プラハの春の再来を信じて不遇の日々を過ごす。

ただ観客が期待することを

表舞台から去ってもチャスラフスカの信念は揺るがなかった。大半の著名人が二千語宣言への支持を翻すなかで反体制の姿勢を貫いていく。

転機は1985年に訪れた。旧ソ連共産党書記長ゴルバチョフによるペレストロイカ（再構築）をきっかけに東欧諸国で民主化運動が息を吹き返す。1989年11月9日、東西冷戦を象徴するベルリンの壁が崩壊し、チェコスロバキアでもプラハの春を彷彿させるビロード革命によって改革派が台頭した。ソ連が消滅し、ロシアが復活する国際情勢の激動の只中でチェコとスロバキアの連邦制が1993年に廃止され、チェコ共和国が誕生する。

ハベル新大統領のもとチャスラフスカは晴れて復権し、大統領顧問、チェコオリンピック委員会会長として表舞台に再び咲く。東京・メキシコと2回のオリンピックで7つの金メダルを手にしたから実に25年の歳月が流れていた。

ところが澁澁と仕事に励むチャスラフスカをまたしても悲劇が襲う。離婚した元夫が次男とのトラブルの果てに死亡するという事件が起きた。彼女は深刻な鬱状態に陥って治療に専念する。

再起不能と噂された彼女を奮立たせたのは師と仰ぐ遠藤幸雄の訃報だった。2009年、闘病生活をつづけていた遠藤が亡くなったと知らされると「遠藤さんのためにもまだやることはある」と本来の自分を取り戻す。日本との国際交流を復活させ、2年後に起きた東日本大震災では被災地の岩手県の子供たちをチェコに受け入れた。

膀胱癌によって74歳で亡くなる1カ月ほど前にチャスラフスカは朝日新聞のインタビューに応じて余命宣告を受けていたことを告白している。東京オリンピックで「私はどうしても観客が期待しているウルトラCを見せたかった。もうメダルなんて関係なく、ただ観客に喜んでもらうために」と語った彼女は最後まで期待を裏切らなかった。